

クラッシュまたは予期しないリロード時に収集する出力

内容

[概要](#)

[Catalyst 9000 シリーズ スイッチ](#)

[基本チェック](#)

[収集する出力](#)

[Catalyst 9800シリーズワイヤレスLANコントローラ](#)

[Cat 9800 GUIからのAPのクラッシュ:](#)

[Cisco AireOSを実行するワイヤレスLANコントローラ](#)

[ログおよびクラッシュファイルのアップロード\(GUI\)](#)

[ログおよびクラッシュファイルのアップロード\(CLI\)](#)

[コントローラからサーバへのコアダンプのアップロード\(CLI\)](#)

[AireOS GUIからのAPクラッシュ:](#)

[AP-IOSのクラッシュ](#)

[CLI経由:](#)

[AP-COSのクラッシュ](#)

[CLI経由:](#)

概要

このドキュメントは、シスコエンタープライズ製品のクラッシュや予期しないリブートが発生した場合に収集する必要がある、重要なチェックと有用な出力に関するガイドです。このドキュメントの情報は、すべてを網羅するものではなく、特にCisco TACでサービスリクエストをオープンする予定のお客様の一般的なガイドとして使用することを目的としています。

Catalyst 9000 シリーズ スイッチ

基本チェック

- リロード/クラッシュはいつ発生しましたか。
- クラッシュの後、スイッチは自動的に回復しましたか。

収集する出力

- show tech-support diagnostic

注: show tech-supportの出力は大きくなる可能性があり、フラッシュ上のファイルに出力をリダイレクトすることを推奨します。

```
Switch# show tech-support | redirect flash:filename
```

- dir all

- flash/crashinfoディレクトリのシステムレポート/アーカイブファイルは、リロード/クラッシュ時に作成されます。
- **request platform software archive** : このコマンドは、アクティブなスイッチ/スーパーバイザのフラッシュメモリにアーカイブファイルを作成します。
- **request platform software trace slot RP standby archive**: Catalyst 9400/Catalyst 9600のハイアベイラビリティ設定の場合は、このコマンドを実行して、スタンバイスーパーバイザからBtraceを収集します。これは隠しコマンドです。実行するようにservice internalを設定します。このコマンドは、スタンバイスーパーバイザのフラッシュメモリにアーカイブファイルを作成します。
- **request platform software trace slot switch standby RP archive**: Catalyst 9400 SVLセットアップの場合にこのコマンドを実行して、スタンバイスーパーバイザからBtraceを収集します。このコマンドは、スタンバイスーパーバイザのフラッシュメモリにアーカイブファイルを作成します。

Catalyst 9800シリーズワイヤレスLANコントローラ

クラッシュの収集/コアダンプsystem-reports/APのクラッシュ。これは、GUIを使用して実行できます。[Troubleshooting] > [CoreDump and System Report]に移動します



またはCLI:

```
# more bootflash:system-report*
# copy bootflash:system-report-YYYYMMDD-HHMMSS-Timezone.tar.gz {tftp: | ftp: | https: ..}
```

または

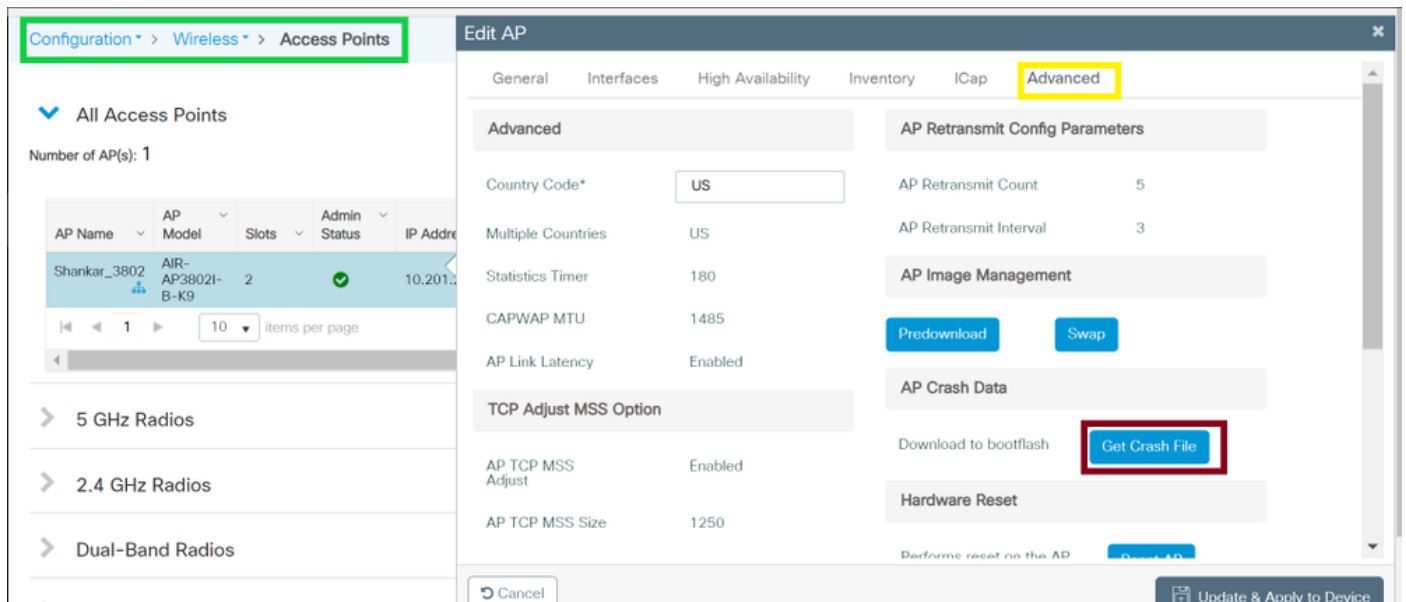
```
# more harddisk:system-report*
# copy harddisk:system-report-YYYYMMDD-HHMMSS-Timezone.tar.gz {tftp: | ftp: | https: ..}
```

収集する追加出力 -

```
show proc cpu platform sorted lmin
show proc mem platform accounting
show redundancy switchover history
show redundancy history
```

Cat 9800 GUIからのAPのクラッシュ :

APがクラッシュした場合は、WLC GUIから[Configuration] > [Wireless] > [Access Points] > [Click on relevant AP] > [Advanced]タブでAPクラッシュファイルを収集します



Cisco AireOSを実行するワイヤレスLANコントローラ

ログおよびクラッシュファイルのアップロード(GUI)

ステップ1 [Command] > [Upload File]を選択します。[Upload File from the Controller]ページが表示されます。

ステップ2 [ファイルの種類]ドロップダウンリストから、一度に1つを選択します。

イベント ログ

メッセージ ログ

トラップ ログ

クラッシュファイル

ステップ3 [Transfer Mode (転送モード)]ドロップダウンリストから、次のオプションから選択します。

TFTP

FTP

SFTP (7.4以降のリリースで利用可能)

ステップ4 [IP Address]テキストボックスに、サーバのIPアドレスを入力します。

ステップ5 [File Path]テキストボックスに、ログまたはクラッシュファイルのディレクトリパスを入力します。

ステップ6 [File Name]テキストボックスに、ログまたはクラッシュファイルの名前を入力します。

ステップ7転送モードとしてFTPを選択した場合は、次の手順に従います。

[Server Login Username]テキストボックスに、FTPサーバのログイン名を入力します。

[Server Login Password]テキストボックスに、FTPサーバのログインパスワードを入力します。

[Server Port Number]テキストボックスに、FTPサーバのポート番号を入力します。サーバポートのデフォルト値は21です。

ステップ8 [Upload]をクリックして、ログまたはクラッシュファイルをコントローラからアップロードします。アップロードのステータスを示すメッセージが表示されます。残りのログを収集するには、ステップ2を繰り返します。

ログおよびクラッシュファイルのアップロード(CLI)

ステップ1コントローラからサーバにファイルを転送するには、次のコマンドを入力します。

```
transfer upload mode {tftp | ftp | sftp}
```

ステップ2アップロードするファイルのタイプを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
transfer upload mode datatype <datatype>
```

ここで、datatypeは次のいずれかのオプションです。

crashfile : システムのクラッシュファイルをアップロードします。

errorlog : システムのエラーログをアップロードします。

panic-crash-file : カーネルパニックが発生すると、カーネルパニック情報をアップロードします。

systemtrace : システムのトレースファイルをアップロードします。

traplog : システムのトラップログをアップロードします。

watchdog-crash-file : クラッシュの後にコントローラがソフトウェアウォッチドッグによって再起動された結果、コンソールダンプをアップロードします。ソフトウェアウォッチドッグモジュールは、内部ソフトウェアの整合性を定期的にチェックし、システムが長期間にわたってinconsistent状態またはnonoperational状態を維持しないようにします。

ステップ3ファイルのパスを指定するには、次のコマンドを入力します。

```
transfer upload serverip server_ip_address
transfer upload path server_path_to_file
transfer upload filename filename
```

ステップ4 FTPサーバを使用している場合は、次のコマンドも入力します。

```
transfer upload username username
transfer upload password password
```

```
transfer upload port port
```

注：portパラメータのデフォルト値は21です。

ステップ5更新された設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
transfer upload start
```

ステップ6現在の設定を確認し、ソフトウェアのアップロードを開始するように求められたら、yと答えてください。

コントローラからサーバへのコアダンプのアップロード(CLI)

ステップ1フラッシュメモリのコアダンプファイルに関する情報を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
show coredump summary
```

次のような情報が表示されます。

```
Core Dump is enabled
Core Dump file is saved on flash
Sw Version..... 6.0.83.0
Time Stamp..... Wed Feb  4 13:23:11 2009
File Size..... 9081788
File Name Suffix..... filename.gz
```

ステップ2コントローラからサーバにファイルを転送するには、次のコマンドを入力します。

```
transfer upload mode {tftp | ftp | sftp}
transfer upload datatype coredump
transfer upload serverip server_ip_address
transfer upload path server_path_to_file
transfer upload filename filename
```

注：ファイルがアップロードされると、末尾に.gzサフィックスが付きます。必要に応じて、同じコアダンプファイルを異なる名前でも複数のサーバにアップロードできます。

ステップ3FTPサーバを使用している場合は、次のコマンドも入力します。

```
transfer upload username username
transfer upload password password
transfer upload port port
```

注：portパラメータのデフォルト値は21です。

ステップ4:更新された設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
transfer upload start
```

ステップ5現在の設定を確認し、ソフトウェアのアップロードを開始するように求められたら、yと答えてください。

AireOS GUIからのAPクラッシュ :

[WLC GUI] > [Management] >> [Tech Support] >> [AP Crash Log]から



AP Name	AP ID	MAC Address	Admin Status
1810W	8	00:fe:c8:2e:3a:80	Enable

AP-IOSのクラッシュ

AP-IOSは、Cisco APのレガシーOSを指します。(例:Access Points 1700/2700/3700/1600/2600/3600 series)。

CLI経由 :

```
terminal length 0  
more flash:/crashinfo-*
```

Find the relevant crash files using timestamp
copy ftp/tftp command to transfer crash file

AP-COSのクラッシュ

AP-COSは、Cisco APの最新のOSを指します。(例:Access Points 91XX/3800/2800/1800 series)。

CLI経由 :

```
show flash crash  
show flash syslogs
```

- クラッシュのタイムスタンプに一致するファイルを検索します
- ターミナルログファイルに追加するか、リストされているクラッシュファイルを

```
copy syslog <filename>tftp:|scp: tftp|scp://x.x.x.x/  
(ex. copy syslogs 14.crash_log tftp: 1.2.3.4 )
```

URLの形式が必要なので A.B.C.D[/dir]/filename.

- イベントIDに一致するすべてのファイルを収集して、適切な測定を行います

コアファイル

- コアファイルは、AP CLI (または 「AP」 コマンドを使用したWLC CLI) からのみ表示および収集できます

```
show flash core
```

注：コアファイルはtar GZファイル(.tgz)に圧縮されます。これらはWinzipを使用して解凍でき、「show tech」と他のログのコピーが含まれます。

- TFTPまたはSCPを使用してコアファイルをコピーする

```
copy cores tftp:|scp X.X.X.X
```